

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490300080		
法人名	特定非営利活動法人 陽だまりの会		
事業所名	グループホーム陽だまり長屋鈴鹿		
所在地	三重県鈴鹿市秋永町大門2092番地		
自己評価作成日	2021/1/18	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvosvoCd=2490300080-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 3 年 3 月 24 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営方針である「誠実で優しい介護を、ご利用者様には満足を、ご家族様にはご安心を」とグループホームの理念「寄り添うケア、笑顔の絶えない我が家」を職員一同共有し、ご利用者様が自宅で生活を送っているような環境創りを行いながら、家族的な支援を目指しています。当施設は、自然環境に恵まれ、日々の生活の中で四季の移り変わりを五感で感じていただけるようにしています。行事には地域の方の参加や、地域の行事にも参加させて頂いたり地域との交流を大切にしています。また、歯科の協力と指導を得て、口腔ケアの強化と訪問歯科診療による、「口」からの健康維持に取り組んでいます。昨今の高温多湿な異常気象に対応し、床下から壁内と屋根裏を通じて強制換気システム(湿度センサー装備)を導入し、特に梅雨から夏季に対し、湿度の軽減を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設より13周年を迎え「寄り添うケア・笑顔の絶えない我が家」の理念を管理者は現在も「一日に一回は笑って笑顔になろう」と日々呼び掛けている。長閑な環境と優しい地域の方々に恵まれ、コロナ禍でも散歩中や畑や庭先で「元気そうやね。」と声掛けられ利用者は安心して暮らしている。食堂兼リビングは、他に腰掛け寛げる席や来客や面会時にも談話が進む心地よい席があり、利用者也安心して移動や着席が出来る環境である。また、天井が高く広々としてカラオケの音量も程よく響き、気分良く楽しめる空間である。コロナ禍で面会中止の中、家族は玄関迄を厳守の上で、利用者は離れた場所から遠目の姿であるが見ることが出来、理解と協力を得ながら、今後お互いが良い距離を保てる工夫を検討している。訪問当日の水曜日「移動スーパー」の訪問があり、利用者は街のスーパーの様に商品棚へ手を伸ばし生き生きと買い物をする姿があり、「元気の栄養やわ!」と嬉しい声が聞こえていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「寄り添うケア・笑顔の絶えない我が家」の理念を利用者・職員で共有し取り組んでいます。各フロアにも掲示し意識付けができるようにしています。	事業所開設以来、親しみ馴染んできた理念は、利用者の生活に相応しい内容として、代々職員の中で引き継がれてきた。利用者への支援は理念に繋がるよう努め、年末には理念に触れる思いを全職員で、振り返りを行なっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入。地元小・中学校の招待により、運動会に参加。見学ではなく競技に参加し、地元の皆さんとの交流を図っています。毎年、地元中学校の「職業体験・チャレンジ15」による生徒の受け入れを行っています。	コロナ禍で地域との交流は出来なくなっているが、回覧板は近所の民家のポスト迄、利用者と届けている。畑にいと近所の方が「元氣そうやね」と声掛けられ、野菜や苗を頂き、利用者とは気軽な挨拶を交わしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	来訪して頂いた方に対して、認知症への取り組みなどのお話しや相談を行う事で、理解を深めています。玄関に認知症に関する冊子を配置し、閲覧していただけます。（持出し可）			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	GHでの生活状況の報告を行うと共に、地域の方々やご家族・ご利用者様からのご意見を伺いサービスの向上など施設運営への反映を図っています。	コロナ禍の為、今年度運営推進会議は第二回以降「書面会議」として隔月毎に、参加委員へ現在も発信を継続している。書面でのやり取りではあるが、広域連合や参加委員からの協力と理解を得ている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険関係や、施設運営上の諸問題について、指導や助言を求め、適切で最善の施設運営を目指しています。	管理者と施設長は必要時、市の窓口へ出向き介護保険関係や困り事の相談、助言への協力関係を築いている。マスクや手袋等の配布を受けたり、コロナ禍での利用者にとって最善の情報を求めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束委員会」を3ヶ月毎に開催し、「身体拘束を行わない介護の質の向上と実践」に取り組んでいます。	「身体拘束適正化委員会」は3か月毎の開催を実施している。玄関は開放して見守りを強化し、利用者には安心と安全の支援をしている。	「身体拘束適正化委員会」の記録の中に、職員の参加や把握確認ができる箇所を加えた記録と、研修資料にも職員の参加が分かる記録作成が望まれる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝夕の申し送りや、ICT(タブレット)を活用した情報交換と共有化を図り、不適切行為発生の抑止を図り、研修などへの参加で、意識の向上を図っています。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業主体や外部研修に参加し、問題発生時には、事業主体の協力を得て解決に当たる体制を持っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には、事前の施設見学などで、GHの特色などの説明と、諸経費等の詳細についてご理解を得た上で、契約の締結を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「意見箱」を設置し、ご家族からのご要望・ご意見に対し、後日管理者又は職員から説明をさせて頂いています。	家族より外出希望の声が聞かれ、コロナ禍の制限下でも日々の散歩等の工夫をしている。家族の小さな声や要望は、聞き逃さず取り入れる様に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見を反映するために、提案箱を設置し、職員会議で検討し、業務改善に反映できる様務めています。	「提案箱」を設置し、職員の意見や要望収集をしている。利用者の生活をより良く考えた備品購入の提案が多く日常生活支援が向上し、職員間での意見も言い易くなっている。人事考課は年2回実施がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇取得推進や、個々の勤務状態把握を行い、人事考課制度を導入し、多角的な評価を行い賃金に反映させています。資格取得者には資格取得祝金を支給しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業主体主催や、外部研修への参加を推進し、伝達講習により、全体のスキルアップを図っています。全職員に対し、研修参加費3万円／年の補助制度があります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平成25年8月頃より、鈴鹿市内の介護事業所団体が主催する研修会・交流会に参加し、情報交換を行っています。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご本人・ご家族との面談を行い、生活歴・家庭環境・日常生活で様子や不安・要望を伺いながら、施設(管理者・職員)との信頼関係構築を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時に、時間をかけてお話を伺い、不安や、現在の困りごとに付いて、気持ちの軽減を図る様努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談などでの情報を基に、柔軟なサービスの提供で、入居による生活環境の変化で生じる混乱を、最小限に留める様努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の利用者様とのコミュニケーションにより、残存機能を活用することで、個人の役割を見つけ、共に生活できる環境創りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には、来所時には日々の生活のご様子・変化などをお伝えし、状態に変化が認められた場合は、ご訪問の依頼や電話連絡などで状態の把握をしていただいています。ご家族の、外出・行事への参加を促しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	継続したボランティアの訪問を受けたり、隣接の有料老人ホーム・デイサービスへの訪問、外出行事には家族さんも参加できるように考慮しています。散歩等で近所の方との関わりを持てるように努めています。移動販売の方との会話を楽しみながら買い物をしています。	毎水曜日の移動スーパー販売車が利用者の馴染みのお店で、販売員との会話も楽しみである。近所への散歩も住み慣れた地域や景色が馴染みであり、継続して支援している。また、馴染みの方からの年賀状や手紙のやり取りは、職員が寄り添って支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロア・台所・食堂・談話コーナー等で、個々の利用者の交流に加え、カラオケやテレビ鑑賞などで、趣味の共通を持ていただくよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用の有無に関わらず、相談などの支援を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の言動などを観察し得た情報をカンファレンス時に職員間で共有し、介護計画に反映するよう努めています。	利用者にゆっくりと寄り添う事で、思いや意向を把握している。言動や表情からの情報はカンファレンスで、活かされるようにタブレット端末に入力し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活の様子を介護支援専門員やご家族・主治医からの情報を受けています。また、日々の生活の様子やコミュニケーションでの情報集に努め、生活歴の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ICT(タブレット)を活用し、職員間に留まらず、事業所全体及び事業主体を含めて情報の共有化を図っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを実施し、3ヶ月に1度はカンファレンスにて評価・介護計画の立案を行っています。必要に応じて、医療連携医・主治医・ご家族にも参加して頂き意見を得ています。	モニタリングは毎月、カンファレンスは3ヶ月毎に実施しており、アセスメントは3ヶ月毎に情報が新しく更新されている。現在の日常生活に反映され、利用者を支える計画書であるように、家族には3ヶ月毎に必ず玄関迄来て貰い意見・意向を聞き説明、同意・署名をお願いしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ICT(タブレット)を活用しながら、情報の共有と、支援の統一を図り、介護計画の評価に反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存に固執せず、ご本人やご家族の状況に応じた柔軟なサービスの提供に努めています。ご本人と共に、自宅訪問を実施する事もあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	回覧板や運営推進会議などから情報提供を受けたり、近隣の農地耕作者の方の方から、施設の畑での耕作にご協力を頂き、利用者様には、作物の耕作・収穫に関わって頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週2回訪問を受ける医療連携医により、各々月2回の往診と、協力医による訪問歯科診療を受け健康管理を行っています。体調等の変化等があった場合は、ご家族への確認を行い、往診を受けています。	全員、協力医による月2回の定期訪問診療がある。また毎週土曜日は訪問歯科診療があり、食欲が出て健康回復した利用者もいる。看護師による機能訓練も行なっている。夜間緊急時は主治医・管理者に連絡し、指示を受けて対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専従の看護師を配置し、健康管理の他に機能訓練を行う事で、機能の維持向上を図っています。看護師不在時は、電話連絡で指示を受け対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院を訪問し病院関係者と情報交換を行い、円滑な入退院が行えるように医療連携医を交え関係・環境創りを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には終末期のあり方や、取り組みをご家族様に説明し、意見の交換を行っています。重症化した場合は、指針・マニュアルを基本に医療連携医・主治医・ご家族様・ご本人様を交え、カンファレンスを行い、方針の統一化を図っています。	開設以来看取りは複数件の経験があり、家族とも円満に行えている。入居後の殆どの家族から看取り希望や関心が多く、必要時意思確認をしている。現在1名の看取り支援に入っているが、状態は落ち着き、昼夜経過を見守り支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時様に、緊急時マニュアルを整備し、勉強会の実施や、外部研修に参加し知識の向上を図っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2回／年の総合訓練と1回／3ヶ月の通報・避難訓練を日中・夜間の想定で実施し、緊急連絡網には地元自治会を含んでいます。隣接施設倉庫に緊急資材を備蓄し、長時間停電に対しては、LEDランタン及び食品類の維持には100ℓのストッカーに保冷剤を準備している。災害発生時には、有料老人ホームと一体となり近隣在住の職員家族の避難場所として施設を活用し業務継続を図る「事業継続計画(BCT)」を策定中です。	年2回防災訓練を実施している。敷地内法人施設との協力で災害以外にも、コロナ感染での隔離支援にも方針が検討されている。災害対策には多くの情報を収集し、有効的に活用出来るよう努め、法人共同の備蓄倉庫で非常用食品・備品を管理している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で情報共有を行い、個々の利用者様の尊厳と安心を守るよう努めています。	個々の尊厳を大切に、言葉掛けは最善の配慮をしている。居室に居たい方・昼寝をしたい方等、一人ひとりに合わせ尊重し、利用者が自己決定し易い声掛けを支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様からの様々なサインに留意し・傾聴し、ご利用者様の自己決定を促す様努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の利用者様が、要望に沿って安全に生活を送っていただける様配慮し、支援を提供しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容・着衣の選択は、利用者様の意向に沿って、ご当人らしく、おしゃれが出来る様に支援をしています。外出時には、本人の好む衣類の買い物を行っています。外部の理美容業者の利用も行っていきます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週日曜日の昼食・夕食は、ご利用者様からリクエストのあったメニューを実施しています。準備には、職員と一緒に行っていただいています。外食の機会も作っています。行事時には、握り寿司等を購入しています。	隣接デイサービスへ、利用者と職員が調理された主副菜品を受取りに行き、一緒に取分けや配膳している。ご飯と吸い物は職員が調理している。日曜日のリクエストメニューは、お好み焼きも人気の一つで、キャベツ刻みが得意な利用者の活躍で楽しみの調理日である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量の把握を行っています。状態が低下した時は、ご家族・看護師・医療連携医・主治医に意見を求め対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後には、口腔ケアを行い、ご自分でできない部分は、支援をしています。毎週土曜日に訪問歯科の往診を受けています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を促しています。ご本人の状態を考慮し、ご家族との話し合いを行い、オムツ利用の場合もあります。	殆どの方に尿意が有るので、個々の排泄パターンに応じたトイレでの排泄を支援している。布パンツで自立の方は見守り支援を継続し、バルーン留置の方には、不安軽減や必要に応じた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や、軽度の体操等で、自然排泄を促しています。解消が難難な場合は、主治医や看護師に相談し、服薬等で補っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴のスケジュールはあるが、希望や体調を考慮した随時の入浴の対応を行っています。ADLにより、隣接の有料老人ホームの機械浴を利用した入浴にも対応しています。	週2回の入浴で、利用者には寛いで貰える様声掛けしている。お湯は一人ずつ入れ替えて、入浴剤も個々に合わせ、甘いオレンジ色のマンゴー湯は特に喜ばれている。入居して間もない方は環境に馴染んで貰える様、気持ちを察した配慮をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室は、個々の生活や嗜好に合わせ、在宅時に使用した日常品の配置を行ったり、ご本人の状態に応じ、くつろいで頂く環境創りに留意しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに服用中の処方箋を綴り、往診・受診記録には、診断情報を記録しています。ICT(タブレット)を活用し、情報の伝達・共有を図っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者には、其々に役割を持って頂くよう配慮し、週1回の移動販売では、買い物を楽しんで頂いています。外食や、希望者には講師を招いた創作活動に参加して頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩や、野外での食事・買い物・外食等で、季節を五感で感じていただける様支援しています。	事業所周辺は長閑な環境下で、気軽な散歩や食事の受取り等、日常的に玄関を出る機会が多くある。自家菜園やプランターの花々等、玄関先に出て眺めて貰ったりしている。桜の時期には地元の酒井神社の桜見へ、交替でドライブを計画している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理はしていますが、お小遣いを持って頂き、移動販売での嗜好品のお買い物や、外出時には買い物や飲食の支払いを、ご自身で行っていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の、希望に沿って対応しています。ご家族への年賀状を書いていただく等の支援も行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の創作物や、季節の花や、飾り付けを行い事で、季節感を演出し、カラオケなど安らぎと楽しみのある空間創りを心掛けています。訪問者と共に談笑できる畳のあるスペースを提供しています。ご利用者の方も畳みは気に入ってもらってます。	食事後は自由に隣のスペースに移動が出来る、テレビを囲みカラオケやテレビ健康体操で、全員が集まり過ごせる共有空間が配慮されている。1日の多くを過ごすリビングは、天井が高くカラオケの音量も程よく響いて、利用者には気分倍増の笑顔が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外に食堂・畳スペース・テレビ前の応接スペースなど、状況に応じて利用できる場所を提供しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力を得ながら居室には、在宅時に使用されていた家具や、ご家族やペットとの写真を飾るなど、ご利用者が心地よく過ごせる部屋創りをしています。	利用者や家族の希望を日々受け止め乍ら、個々のお気に入りの居室である様に、自由な持ち込み品が置かれている。本好きな方のベッド前方には書籍や漫画本が一行に並び、整理整頓がされている居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	認識力が低下したご利用者には、自室やトイレなどに目印を表示し、混乱の軽減を図っています。献立表・予定表等は掲示板に掲示し、ご利用者にも確認し易いよう配慮しています。		